

本委員会は、高度個人情報を取り扱っており、議事内容は要約とし、該当の箇所は非公開と致します。

## 平成 29 年度 吹田市乳がん検診精度管理委員会 議事録（要約）

1 開催日時 平成 30 年 2 月 24 日(土) 午後 2 時半～4 時

2 開催場所 保健センター3 階 特別会議室

3 出席委員

古川順康委員長 相馬孝委員 渡邊法之委員 岩本伸二委員 豊田泰弘委員  
藤本泰久委員 佐竹一成委員 吉岡泰彦委員 塚原康生委員 丸川治委員  
朝川秀樹委員 谷口隆委員 川西克幸委員 北川幸子委員

4 欠席委員

谷融委員 木村綾委員

5 市出席者

健康医療部保健センター

参事 岸敏子 主幹 柏原令子 主査 黒田雅子 主査 永井菜穂子 主任 幡中美沙  
係員 井戸菜摘 係員 中山佳奈

6 内容

(1) 委員紹介・事務局紹介

(2) 委員長の選出

(3) 説明・周知・決定事項

ア 30 歳代視触診単独検診廃止について \*資料なし

・平成 30 年 3 月 31 日にて終了。平成 30 年 1 月の市報にも掲載済み。医療機関・市民への周知を徹底していく。

・検診廃止の周知及び乳がんの啓発の一環として、3/21(水・祝)に「女性の健康フェスティバル」を開催予定。

<質疑応答>

B 委員 市報での啓発は 1 月だけか。

事務局 1 月～3 月の市報に、廃止予定を掲載。4～6 月は、廃止したことを市報に掲載予定。

イ 偶発症について \*資料なし

・吹田市・大阪府とも特になし

ウ チェックリストの結果公表に関して (資料1)

- ・大阪府のホームページ上にて広く一般に公表されている。

<質疑応答>

A 委員 施設別公開はあるのか。

事務局 現在平成27年まで公開されているが、施設別ではない。今後医療機関ごとに公開があるとの説明は今のところない。

(4) 吹田市乳がん検診実施状況について (資料2・3)

**補足説明**

- ・平成31年度保健センターの健康情報管理システムが新システムに移行後、一次読影・二次読影の医師毎の判定結果を計上することが可能となり、読影医のスキル向上に活用できる可能性がある。

<質疑応答>

B 委員 対象者数の人数について、40-69歳が少ないのはなぜか (資料P3)

事務局 対象者の算出方法が決まっており、対象者数は、国勢調査人口から就業者数を除いたものである。よって、この年代は就業者が多い関係で対象者数が少ないと考えられる。

C 委員 初回・非初回は、転入者などは、他の自治体での受診分はカウントしているのか。

事務局 していない。

(5) 検討事項

ア マンモグラフィ実施医療機関の公表について \*資料なし

事務局 マンモグラフィ取扱い医療機関を公表してほしいと市民からの要望あり。公表してよいか。

公表により、受診者が集中するなどマンモグラフィ実施医療機関の負担が大きくなるか。

<意見>

B 委員 乳がん検診は予約制ではないが、国保健診は予約制にしているため、国保健診と乳がん検診の同時受診を希望されても対応は可能。

D 委員 他の医療機関で視触診して当病院でマンモグラフィの受診をするのは数%程度であり、対応は可能。

E 委員 当院ではそもそも視触診とマンモグラフィは同日にはできない。そのためか、3割は自院、7割が他の医療機関で視触診をしてからマンモグラフィの受診に来ている。

- F 委員 マンモグラフィ実施医療機関を公表していないことが驚き。公表していない自治体は少ない
- G 委員 3 医療機関程度からは、その医療機関で視触診を受けたあとに、自院へのマンモグラフィの紹介はあるが、ほとんどないと考えてよい。公表しても対応は可能である。
- H 委員 他の医療機関で視触診を受けてから自院に来る方は 10%程度。検診は予約制であり、まだキャパシティはあるため対応可能。
- B 委員 他医療機関で視触診を受けてから自院にマンモグラフィを受けにくる方は 20%。乳がん検診は予約制ではないが、対応は可能。
- C 委員 最近では情報公開の流れである。公表したほうが良いと思われる。

#### 決定事項

欠席されている医療機関にも意見を伺った上で公表することとする。公開内容の詳細は要検討とする。

#### イ 高濃度乳房の取り扱いについて \*資料なし

事務局 高濃度乳房の受診者への告知に関して、来年度は「告知しない」方針であるがどうか。

#### <意見>

B 委員 医師によって高濃度乳房の判断の取扱い方が違う。特に不均一高濃度乳房は、判断が確立しておらず、医師によって判断が違う。今後国からの研究結果が発表される予定もある。また、どのように通知するか国で検討もされているが、国からの通知案はまだ出てきていない。このような国の動向もあるため、吹田市としては急がなくても良いのではないかと。国が決めてからでもよいのではないかと。

D 委員 機械と撮影条件によっては、描出される画像が変わることがあり、高濃度乳房の判断に大きく影響する。

B 委員 乳房の厚みがないと高濃度になる傾向があるなど、高濃度乳房の判断基準は難しい。

#### 決定事項

国の動向を確認しながら、吹田市としては、当面公表しないこととする。

#### (6) その他 (資料 4)

事務局よりマンモグラフィ実施医療機関への事務連絡

～終了～